

FOCUS 利用支援システム, 「FRIEND」^{*1}福島 英之^{*2}

FOCUS Support System for End Users—“FRIEND”

Hideyuki Fukushima

1 FRIEND 開発の背景とねらい

最近のシステム化の対象業務はオペレーショナル・レベルから企画・管理レベルの業務に重点が移りつつあるが、企画・管理レベルの業務は非定型・非定例の業務が多く、あらかじめプログラムを用意しておくのは困難である。その解決策の1つとして登場したのが End User Language (EUL) であり、実務者向けに開発された言語のためだれにでも容易に利用でき、エンドユーザ（実務者）自身が必要な時に必要な情報をコンピュータから取り出すことができる。川崎製鉄でもアシスト社の FOCUS という EUL を全事業所に導入し、実務部門に開放している。

しかし、EUL は簡単に利用できるとはいえ、そのまま単体で使うにはまだ問題があり、コンピュータ利用上の専門知識や制約を知らなくてもよいという訳にはいかず、普及の障害となっている。この問題解決のために開発したのが **FRIEND** (Focus report information support system for end user) であり、FOCUS をより一層使いやすくして利用者へのサービスを向上させるとともに、コンピュータ利用上のセキュリティやシステム資源の使用などの諸問題にも対処している。Fig. 1 は FRIEND の開発の背景とねらいを要約したものである。

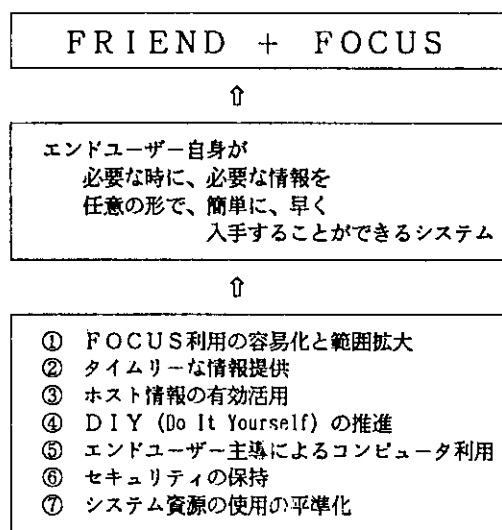


Fig. 1 FRIEND 開発の背景と狙い

2 FRIEND の概要

FRIEND が利用者を直接サポートする機能には、

- (1) FOCUS リクエストの作成および登録
- (2) FOCUS リクエストの文法チェック
- (3) 作表処理の実行指示と実行状況照会
- (4) 作表結果の出力

があり、これらを利用手順として表すと Fig. 2 のとおりである。

利用者は、まず帳票のイメージ・アップを行い、FOCUS に対するリクエスト（一種のプログラム）を作成する。そして、オンライン端末を用いてコンピュータに登録し、必要ならば文法チェックを行い間違いがあれば訂正する。登録されたリクエストは FRIEND

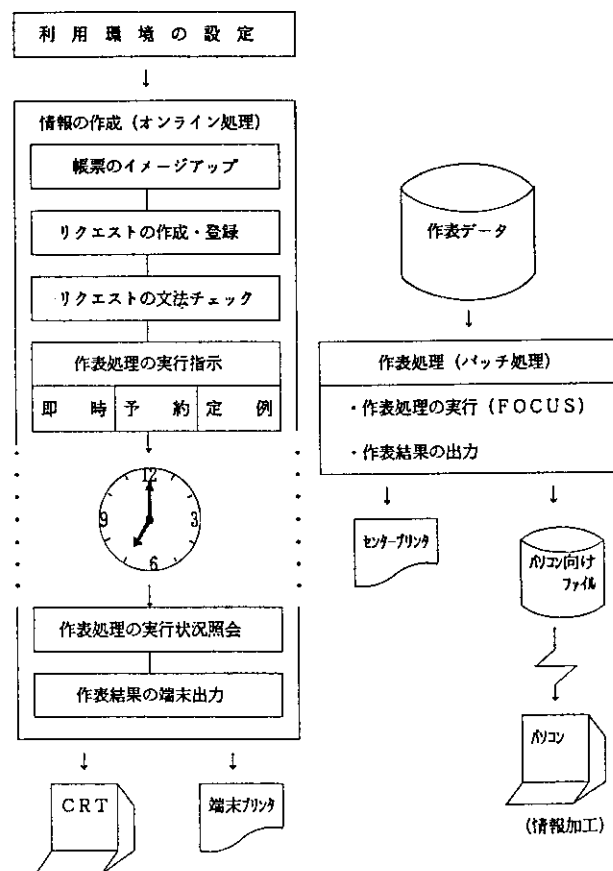


Fig. 2 FRIEND の概念図

*1 昭和62年12月24日原稿受付

*2 川鉄システム開発(株) 第1システム事業部大阪営業所 課長

```

*** FRIENDメニュー ***

リクエスト登録   01 新規
                  02 更新 (修正または取消)
                  03 リクエスト複写
                  04 FOCUS文法チェック

実行指示        11 即時実行
                  12 予約実行
                  13 定例実行
                  14 端末出力

照 会           21 実行状況照会
                  22 登録リクエスト一覧
  
```

```

*** FOCUSリクエスト登録 ***

資料NO 15  ××部社員リスト

N O  行指示  << リ ク エ ス ト 内 容 >>
001  [ ]     TABLE FILE JEAAK01
002  [ ]     HEADING CENTER
003  [ ]     *** ××部社員リスト ***
004  [ ]     PRINT KA001
005  [ ]     JSIMEI
006  [ ]     KA002
007  [ ]     KA003
008  [ ]     KA004
009  [ ]     KA005
010  [ ]     KA006
  
```

```

*** 予約実行指示 ***

<<資料NO 15  ××部社員リスト>>

I : 実行要件

  指定日時  [871208]  [1900]

  出力媒体  [LP]      (HP, LP, PC)

II : 実行時データ入力欄

  KOMOKU1  [10]      KOMOKU2  [20]

  KOMOKU3  [120]
  
```

Fig. 3 FRIENDの端末画面サンプル

が管理しており、何度でも利用することができるとともに、一部を変更して他の作表に転用することもできる。

次に、利用者は作表処理の実行方式を指示する。緊急度に応じて、即時、予約（日時指定）および定例のいずれかを選択する。FRIENDは指示に従って作表処理を自動的に実行し、作表結果を出力する。作表結果の出力方法も種々のものがあり、端末機の画面あるいはプリンタへの出力もしくはパソコン（端末機）にファイルの形で転送する等の選択が可能である。

なお、利用者はオンライン端末を用いてFRIENDと対話方式で作表内容および実行方式の指示を進めていくが、その時のオンライン画面の一部を紹介するとFig. 3のとおりである。

3 FRIENDの特徴

FRIENDの主たるねらいは、

- (1) 利用者に対するFOCUS利用上のサービス向上
 - (2) コンピュータ・センター運用上の諸問題への対処（セキュリティ対策、コンピュータ資源の有効活用など）
- 等であり、利用者のニーズと情報システム部門のニーズをうまく調和させたものとなっている。

これらのねらいを踏まえたFRIENDの特徴は次のとおりである。

- (1) 作表処理依頼の容易化
作表処理そのものはバッチ処理であるが、利用者は、コンピュータ利用環境の登録手続等の必要なく、通常のオンライン・システムの一環として作表処理依頼を行うことができる。
- (2) FOCUSリクエスト作成の容易化
既存の類似リクエストを引用しその一部に修正を加えることにより新しいリクエストを作成することができる。また、新規登録したリクエストの検証テストを行うこともできる。
- (3) 作表処理実行の柔軟性
作表処理の実行形態は、即時、予約（日時指定）および定例の3つがある。利用者はニーズに合わせて1つを選択すれば、コンピュータ・センターのオペレータの介入なしに、自動的に作表処理を実行する。また定例実行の指定を行えば、コンピュータの空き時間（例えば夜間や休日）に走らせることができ、コンピュータ資源の有効利用を図ることができる。
- (4) 作表結果出力の融通性
作表結果の出力方法は、端末機（画面またはプリンタ）への出力、センタープリンタへの出力およびパソコンへのファイル転送の3つがあり、利用者は任意に選択ができる。センタープリンタへの出力に際しては帳票の先頭に配信先をプリントし帳票配信の容易化および正確化を図っている。
- (5) セキュリティ対策
セキュリティ対策への配慮もなされている。FRIEND自身の利用許可、データの保護、FOCUSリクエストの保護などの機能を持っており、過失の防止や権限外のデータ・アクセス防止などを行っている。

4 FRIENDの稼働環境

FRIENDと呼んでいる商品にはIBM版と富士通版の2つがある。具体的なハードウェア/ソフトウェアの稼働条件を示すと次のとおりである。

- (1) IBM版
 - ・ハードウェア
IBM 3090, 308 X, 4381
 - ・ソフトウェア
MVS/SP-JES 2, IMS/VS, COBOL
- (2) 富士通版
 - ・ハードウェア
M-780, 760, 380, 360
 - ・ソフトウェア
OS IV/F4-MSP, TSS, PFD, IPF, COBOL, DSPRINT
またはAPS